



京都市行財政局
防災危機管理室
(電話 212-6792)

京都市レジリエンス戦略の発表について ～しなやかに強く、持続可能な魅力あふれる京都のために～

京都市では、自然災害や人口減少をはじめとする様々な危機に対し、しなやかに対応し、将来にわたって人々がいきいきと暮らせる、魅力と活気に満ちた都市(=レジリエント・シティ)の実現に向けた取組を進めています。

この度、今後の取組指針となる、「京都市レジリエンス戦略(以下、「戦略」という。)」を策定したので、発表します。

1 京都市レジリエンス戦略の発表

(1) 日時

平成31年3月18日(月) 午前9時45分～午前10時30分

(2) 場所

京都市役所消防庁舎 7階 作戦室

(3) 出席者

門川 大作 京都市長

ローレン・ソーキン ロックフェラー財団「100のレジリエント・シティ
(100RC)」アジア太平洋事務所 代表

藤田 裕之 レジリエント・シティ京都市統括監(CRO)

寺田 一博 京都市会議長

湯浅 光彦 京都市会副議長

ソーラブ・ガイダニ 100RCアジア太平洋事務所 京都市担当ディレクター

(4) 式次第

- ・ CROによる戦略の概要の説明
- ・ 市長挨拶
- ・ 市会議長挨拶
- ・ 100RCローレン・ソーキン氏挨拶
- ・ 記念撮影
- ・ 質疑応答

(5) 配布物

- ・ 戦略 本編
- ・ 戦略 概要版
- ・ 戦略 英語版

※ 電子データは下記URL又はQRコードから御覧ください。

<https://www.city.kyoto.lg.jp/gyozai/page/0000248522.html>



2 これまでの経過について

時期等	実施・取組内容
平成 27 年度 11 月 20 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 100RCプロジェクトへの応募
平成 28 年度 5 月 25 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本市が100RC参加都市の一つとして選定される
2 月 8 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ アジェンダセッティング（課題設定）・ワークショップ開催 本市が克服すべき課題等について議論。93組織・166名が参加。
平成 29 年度 4 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前副市長の藤田裕之氏をCRO（レジリエント・シティ京都市統括監）に任命 ※本市の取組に関する説明等を実施（平成31年2月末現在での実績154件）
4 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回京都市レジリエンス推進本部会議（全庁的な推進体制の構築）
10 月 4 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回京都市レジリエンス戦略本部会議 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> 重点的取組分野の決定（6分野） <ul style="list-style-type: none"> ① 人が育つまち ② 支え合い、助け合うまち ③ 豊かに暮らせるまち ④ 快適で安心安全なまち ⑤ 環境にやさしいまち ⑥ 災害に強いまち </div>
平成 30 年度 7 月 4 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回「京都創生総合戦略・レジリエンス・SDGs」推進本部会議 （あらゆる危機の克服，持続可能な社会の実現に向けた三者の融合）
1 月 7 日 ～2 月 12 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 京都市レジリエンス戦略（案）についての市民意見募集実施 ※意見者数541人，意見総数1,137件
3 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回「京都創生総合戦略・レジリエンス・SDGs」推進本部会議 ・ 京都市レジリエンス戦略発表

3 今後の取組について

「レジリエンス」の言葉と考え方が京都に住み，活動する皆様に浸透し，実践につなげていただけるよう，マンガ等を活用した分かりやすい冊子の作成・配布や市民フォーラムの開催等の取組を進めていきます。また，「レジリエンス」の視点で，あらゆる政策・施策を点検・強化し，行政分野を越えた更なる融合を図るとともに，その担い手である職員の育成に向けた研修の実施やワークショップの開催等の取組を進めていきます。

さらに，「100のレジリエント・シティ」に選定された海外都市や，本市の姉妹都市・パートナーシティとの連携や情報共有を図りながら，本市の取組を広く世界に発信するとともに，先行事例を本市の取組に活かす等の取組を進めていきます。

【出席者略歴】

- ローレン・ソーキン氏（100RCアジア太平洋事務所 代表）



環境マネジメント及びナレッジ（知財）マネジメントの専門家であり、6年間、アジア開発銀行とともに、アジア太平洋地域における気候変動に対応した開発の推進に尽力している。

- ソーラブ・ガイダニ氏（100RCアジア太平洋事務所 京都市担当ディレクター）



都市計画と建築の専門家であり、様々な観点から都市課題を分析・解決。過去には、シンガポールの基本計画や工業団地の指針の策定に尽力。京都市の担当ディレクターとして、連絡窓口となっている。

【参考】

1 「100のレジリエント・シティ」プロジェクトについて

- ロックフェラー財団が設立100周年を記念して、2013年（平成25年）に立ち上げたプロジェクト
- 世界で都市居住人口の急増が見込まれる一方、都市の急速な発展や自然災害等への備えが十分でないとして、同財団が2013年からの3箇年で公募により選定した世界の100都市に対して、総額1億ドルの財政支援や技術的支援、選定都市相互の情報交換の場等を提供することにより、世界中にレジリエント・シティの構築を目指す取組
- 2013年にはニューヨークやローマ、メルボルン等30都市が選定、2014年には、ボストンやパリ、ロンドン等33都市が選定されており、最終年である2015年において、京都市を含む世界の37都市が選定。（日本では京都市の他、富山市が選定されている。）

2 レジリエント・シティ京都市統括監（CRO：「Chief Resilience Officer」の略）

100RCがすべての加盟都市に設置を必須としている職位。都市がレジリエンス構築に向けて資源を総合的に活用できるよう、市長及び各部局等に対し必要な助言等を行うなど、レジリエント・シティの実現に向けた取組を先導する。